

学校教育目標	未来の笑顔のために
目指す学校像	自ら学び 心豊かでたくましく 自律した子どもの育成
重点目標	1 自律した学習者の育成 2 心のサポート体制の確立 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 子どもの幸せを保障する教育の実現を目指した教職員一人ひとりの Well-being の向上 5 安心・安全な教育環境の整備

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価		実施日令和7年12月12日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自律した学習者の育成</li> <li>・発達の段階に応じて、効果的に ICT を活用した授業づくりを推進し、理解度に合わせて問題に取り組む等、個に応じた指導において活用が進んできている。</li> <li>・全国学力学習状況調査、市学習状況調査の結果等からも基礎学力については概ね身に付いていると言えるが、個人差が大きい。</li> <li>・自ら課題を設定し、解決を目指して学びを深める能動的な学び手としての力の育成が求められる。</li> <li>・宿題から家庭学習(自主学習)にシフトすることの価値について理解を深め、家庭学習の計画を立てられるような支援・指導が必要である。</li> <li>・学習者主体の授業づくりに向けた教職員の資質向上を図る研修を充実が必要である。</li> </ul>	自律した学びの充実  学習者主体の授業づくりの推進	①発達の段階に応じて、効果的に ICT を活用し、理解度に応じて個の学びを工夫した授業づくりを展開する。 ②自ら学ぶ楽しさを実感できるようカリキュラムマネジメントを推進し、ゆとりある指導計画で試行錯誤しながら学びを深め、生活に生かす体験を重視した教育活動を展開する。 ③自律した学びの確立を目指し、発達の段階を重視した「家庭学習の手引き」を策定する。	①発達の段階に応じて、効果的に ICT を活用し、理解度に応じて多様な活用を工夫した授業づくりを行うことができたか。 ②各学年カリキュラムマネジメントを進めると共に日課表に「個別の学習」の時間を新設することができたか。 ③自律した学びの確立を目指し、発達の段階を重視した「家庭学習の手引き」を策定することができたか。	①保護者・教職員による学校評価では、ICT の効果的な活用に関する結果が前年度比 8～9%増という結果となった。 ②教科横断的にカリキュラムマネジメントを進め、日課表には「学びの時間」を位置付け、それぞれのペースで学習できるようにした。 ③家庭学習の手引きを作成し、学校ホームページに掲載し、啓発を図った。	A	自律した学習者の育成に向けては、探究的な学びの実現が重要であると言える。引き続きカリキュラムマネジメントの定着を図るとともに、試行錯誤しながら学びを深める授業の実現に向け、ゆとりある指導計画の作成を進めていく。
			①教職員の資質向上を図るため、効果的に教育 DX を活用し、いつでも、どこでも、何処でも学ぶことができる研修体制を構築する。 ②体育科の授業を通して、学習者主体となる自律した学びを深める授業づくりについて研修を深める。	①日々の教育実践における課題解決につながる校内ミニ研修を月1回開催することができたか。 ②進んで学習に取り組むと共に課題の解決に向けて自分で考え、取り組むことができる子どもの割合が増えたか。	①任意研修「えがお」を毎月開催し、教職員の実践的指導力を高め、不安気象につなげることができた。 ②主体的に学習に取り組む児童の育成に向け授業改善を推進し、保護者による学校評価の結果、肯定的な回答が20%増となった。	A	学習者主体の授業づくりにおいては、体験を通して実感を伴った理解を深める教育活動の工夫が重要である。各教科等における指導の在り方を見直していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心のサポート体制の確立</li> <li>・明るく素直で下級生や友だちに優しい児童が多い反面、集団生活の中で生じる静い等に対して心を痛め、自身の心のうちためてしまう傾向が見られる児童も散見される。学校評価における「友だちと仲良く生活していますか」という質問項目に対する児童の肯定的な回答の割合は97%となっている。</li> <li>・長期欠席児童数が年々増加している。児童の抱える不安を解消し、心のサポート体制を構築することが求められる。</li> <li>・誰一人取り残さない、全ての児童の未来の笑顔を目指した特別支援教育への一層の理解を深める必要がある。</li> </ul>	誰一人取り残さない教育の実現を目指した校内体制の整備  児童一人ひとりに寄り添った教育の推進及び相談体制の整備	①誰一人取り残さない教育の実現を目指し、「Sola るーむ」の制度設計を見直し、選択肢の一つとしての居場所づくりを行う。 ②個別の指導計画、個別の支援計画について家庭と連携して作成するとともに、特別な教育的配慮の具体を学ぶ機会を創出する。 ③専門的知見を有する関係諸機関と連携し、対応を進める。	①「Sola るーむ」の充実により、長期欠席児童数の減少に資することができたか。 ②全ての教職員がひまわり学級訪問を通して特別支援教育の具体を学ぶことができたか。 ③教育委員会等と連携し、積極的に特別な配慮を要する児童に対する指導の在り方について学ぶ機会を設け、児童の笑顔につなげることができたか。	①「Sola るーむ」等多様な居場所を工夫し、長欠児童数の減少につなげることができた。 ②日頃から特別支援教育への興味・関心を高めるとともに、ひまわり学級訪問期間を設け、参観することができた。 ③教育委員会によるコンサルテーションを行うと共に個別の指導計画作成の時間を設け、特別支援教育に対する理解を深めた。	B	多様性の包摂を念頭に、特別支援、教育相談をはじめとしたそれぞれの専門性を高める研修の充実、関係諸機関との一層の連携を図る。
			①全教職員一丸となって児童を支援する児童理解を促す校内体制を整備する。 ②児童一人ひとりの健やかな成長を目指し、対話を重視し、児童理解を深める面談を実施する。	①月1回の児童理解部会を開催し、全ての教職員が児童理解に基づく支援に努めることができたか。 ②児童と保護者、それぞれに対する個別の面談機会を増やして、対話を通じた寄り添いを進めることができたか。	①毎月、児童理解部会を開催し、組織的な対応ができるようになった。 ②児童面談を毎学期実施し、保護者面談を6月と12月の2回実施した。	B	保護者全員面談を2回実施したが、学級閉鎖等により日程変更が多かった。今後は、1回は全員面談、1回は希望面談に変え、相談したいことができたときに相談しやすいつ体制づくりを進める。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域と共にある学校づくりの推進</li> <li>・開校151年目を迎え、本校の卒業生も多く、地域では児童の健全育成に向けた事業が展開されている。</li> <li>・児童の活躍、成長と共に喜んでくれる地域である。</li> <li>・家庭環境等も社会情勢と共に変化しつつあり、従来通りの在り方について見直しを求められることもある。</li> <li>・未来の創り手としての意識、地域への誇り、愛着を深める教育活動の充実に一層努めたい。</li> <li>・学校運営協議会への児童の参加を通して、地域の一員として協働活動を推進することが求められる。</li> </ul>	学校運営協議会を核とした地域協働活動の推進  ICTを活用した積極的な情報発信	①学校運営協議会に児童が参画し、熟議を通して、自分事として学校・地域をよりよくするために何ができるか考え、協働活動を実現する。 ②全学年、地域の教育力生かし、地域との交流を教育課程に位置付け、地域への愛着を深める。	①学校・地域をよりよくする「ありがとう」のあふれる学校、地域を目指した協働活動を展開することができたか。 ②学校評価における「自分が住んでいる地域は好きですか」という質問項目における児童の肯定的な回答の割合を向上させることができたか。	①学校運営協議会に児童が参加し、代表委員会で協働活動に向け準備を進めることができた。 ②地域への愛着に関する学校評価の児童の回答は96%の肯定的な回答となっており、前年度と同様であった。	A	引き続き未来の創り手となる児童が参画し、学校・地域をよりよくする取組を推進していく。
			①学校の教育活動の様子をホームページ、学校だより等で周知する。 ②学校安心メール等を効果的に活用し、教育活動の様子を発信する。	①デジタルと紙を併用して学校の教育活動の様子を発信することができたか。 ②学校評価における保護者を対象とした「学校は保護者地域に広く情報を公開している」の評価項目に対する肯定的な回答の割合を向上させることができたか。	①地域へは学校地域連携コーディネーターが手紙を届け、保護者にはデジタル配信でいつでも確認できるようにした。 ②学校評価における情報発信については、肯定的な回答が98%となり昨年度と同様であった。	A	デジタルを活用しつつ、学校教育における精神の根幹の部分をしっかりと言葉で伝えることができるように引き続き努めていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心・安全な教育環境の整備</li> <li>・落ち着いた学習環境の整備に向け、校内の整理・整頓を教職員が率先して行い、児童もそれに倣うことができつつある。</li> <li>・月1回の他、随時安全点検を実施し、必要な修繕について計画的に進めている。緊急の修繕については、教育委員会と連携しながら迅速に対応できるよう努めている。</li> <li>・登下校の安全確保について、今後も保護者等との連携充実が求められる。</li> </ul>	落ち着いた学習環境の整備  計画的な予算執行による安全な教育環境整備	①落ち着いた環境で1日がスタートできるようにするための教室整備を徹底させる。 ②廊下の整備や PTA と連携した掲示物作成により、学習環境を整備する。	①「学校は、安心・安全な教育環境の整備を行っている」という評価項目への肯定的な回答の割合を向上させることができたか。 ②優先順位を検討しながら安全な環境整備に努めるための予算委員会を開催することができたか。	①教育環境整備に関する保護者の学校評価結果は、肯定的な回答が87%となり、前年度比9%増となった。	A	教育環境整備の実際を学校だより等で確実に周知する。また、安全点検結果を踏まえ、迅速に対応を進める。
			①プール、防火施設、遊具等、経年劣化による施設修繕を計画的に進める。 ②安全管理の徹底に努めるとともに、緊急時(エアコン故障、落枝等)の対応を迅速に進め、教育活動が円滑に行われるようにする。	①優先順位を検討しながら安全な環境整備に努めるための予算委員会を開催することができたか。 ②日常的な安全点検を確実にし、危険箇所を早期発見し、事故の未然防止をすることができたか。	①予算委員会を開催し、効果的に予算の執行をすることができた。 ②安全点検の確実な実施及び迅速な修繕により、学校施設の瑕疵による事故の発生はなかった。	B	学校の教育環境及び施設状況を踏まえ、優先順位をつけながら効果的に予算を執行できるようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの幸せを保障する教育の実現を目指した教職員一人ひとりの Well-being の向上</li> <li>・児童一人ひとりの「未来の笑顔」のための教育活動充実に向け、自己研鑽に努め、教職員一人ひとりが率先して自身にできることに取り組んでいる。</li> <li>・生徒指導・教育相談体制の充実に向け、丁寧な対応を心掛けている。反面、聞き取りによる自習時間が生じることに対して苦慮する面もある。</li> <li>・子どものできた喜びが教師の喜びとなっている教職員が多い。</li> <li>・1月当たりの時間外在校時間が45時間をはるかに超える教職員が多い。</li> </ul>	教職員研修の充実  心身の健康を重視した取組の推進	①管理職がこまめに教室訪問を行い、よさや課題について具体的な助言を行う。 ②ニーズに応じたミニ研修を開催し、学び合い、高め合いながら課題解決を行い、日々の実践において成就感を味わえるようにする。	①教職員一人ひとりの成長が実感できる声掛けを通して、「働きがい」や「誇り」の涵養に努めることができたか。 ②学校評価における教職員を対象とした「本校では、研修に主体的に取り組んでいる」という評価項目に対する肯定的な回答の割合を向上させることができたか。	①教職員一人ひとりの Well-being 向上を目指し、互いのよさを認め合う風土を醸成し、成果を実感できる声掛けを行った。 ②主体的な研修への取り組みに関する教職員の学校評価の結果は、肯定的な回答が95%となり、前年度比3%増となった。	A	学び合い、高め合う楽しさややりがいを実感できるような学校運営を進め、様々な立場の方からの声を教職員と共有し、一層の誇りの涵養につなげていきたい。
			①教職員が健康で幸せにしていることが児童への指導の充実につながることを共有し、ワークライフバランスを重視した働き方を助言する。 ②風通しの良い職場環境を整え、「共に考える」組織づくりを進める。	①家族や自身の健康のために有給休暇等を取出しやすいつ雰囲気づくりができたか。 ②学校評価における、教職員を対象とした「本校では、教職員が困っている時、互いに相談しやすいつ雰囲気がある」の肯定的な回答の割合を向上させることができたか。	①管理職による声掛け、休んだ時のフォロー体制を整え、ワークライフバランスを重視した働き方を推進した。 ②学校評価における教職員の「困っている時相談しやすいつ」という評価項目に関する肯定的な回答は100%となり、前年度比5%増という結果となった。	A	家族を大切にしたい働き方を今後も推進し、自分も相手も互いに支え合うよさが実感できるような学校づくりを進める。

・委員の声から  
 ・学力向上に関する評価項目に関して、肯定的な回答の割合が100%となっている。ICT を活用した授業の実施については、「分からない」という回答が11%あり、今後、教育活動の公開に一層努めていきたい。  
 ・心の教育に関する取組については、5つの質問項目のうち4つで「わからない」という回答が11%あった。それ以外は、全て肯定的な回答となっており、今後は、児童の内面の変容について共有できる手立てを工夫していきたい。  
 ・地域と共にある学校づくりに関する4つの質問項目は、全て肯定的な回答となっている。今年度の取組を維持向上できるようにしたい。  
 ・教育環境整備に関する質問項目に対する委員の肯定的な回答は、100%となった。老朽化に伴う修繕について優先順位を付けて計画的に進めていくことが重要である。  
 ・教職員の資質向上に関する取組については、委員の肯定的な回答の割合が89%となっており、11%が「分からない」となっている。今後は、取組について学校運営協議会等において周知していきたい。  
 ・先生方がチームワークよく取り組んでいる姿勢が素晴らしい。  
 ・日頃より教職員の皆様が懸命に力を尽くそうとしている姿を見ると感謝しかない。教職員の評価こそ最も重要である。

